

平成 26 年第 5 回教育委員会定例会会議録

- 1 開会宣言 平成 26 年 4 月 23 日（水）午後 1 時 30 分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 201 会議室
- 3 出席者 長沼委員長、坂爪委員長職務代理委員、渡辺委員、須佐委員、長谷川教育長
- 4 説明のための出席者
池浦教育部長、笹川教育総務課長、久住子育て支援課長、樋山小中一貫教育推進課長、前澤教育センター長、長谷川生涯学習課長、清水教育総務課長補佐、大谷教育総務課庶務係長
- 5 傍聴人 2 人
- 6 議 題
 - (1) 会議録の承認
平成 26 年第 4 回教育委員会定例会会議録
 - (2) 報告
報第 1 号 専決処分報告（三条市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱）について
報第 2 号 平成 25 年度第 4 回三条市社会教育委員会議及び公民館運営審議会会議録について
 - (3) 議事
議第 1 号 さんじょう一番星育成事業実施要綱及び開講スケジュールについて
 - (4) その他
ア 小中一貫教育実施状況について（概要報告）
イ 「三条市の幼児教育」及び「三条っ子発達応援事業」パンフレットについて
ウ 次回教育委員会定例会の日程について
- 7 審議の経過及び結果
 - (1) 会議録の承認
長沼委員長から平成 26 年第 4 回教育委員会定例会会議録について諮り、承認と決定
 - (2) 報告
報第 1 号 専決処分報告（三条市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱）について
報第 2 号 平成 25 年度第 4 回三条市社会教育委員会議及び公民館運営審議会会議録について
長谷川生涯学習課長が一括説明
質疑に入るが質疑なく、全員異議なく承認と決定
 - (3) 議事
議第 1 号 さんじょう一番星育成事業実施要綱及び開講スケジュールについて

前澤教育センター長が説明、池浦教育部長が補足説明

(長沼委員長)

塾の方の反応はいかがですか。

(池浦教育部長)

塾に関しましては、事前に今年の1月の段階で市内を含めた県内、それから県外にも少しご意見を聴くために回ってきました。基本的に中学校を専門にしているところにつきましては、かなり参加の意思を強く持っておられると感じましたが、大学受験のための高校生対象の塾については、どうなんだろうという意見もいただいています。ただ、こういった事業をやることについては、皆さんかなり前向きに捉えていただいております。

(前澤教育センター長)

明日、説明会を実施させていただきますが、現在のところ15の塾の方から説明会への参加報告をいただいております。

(坂爪委員)

基本的にはいいんですけど、少なくて人数が達しなかったときの場合もあるんで、そこらあたりもしっかりしていけないといけないと思います。親と学校と塾と教育委員会の連携をうまくとることで効果が上がると思いますので、そこらあたりもしっかりと形を作っていけないとうまくいかないと思います。

(渡辺委員)

予想としましては、塾の方もやめないで、市主体のマルシェの方にも参加するという子どもも当然出てくると思います。その辺のことはどういうふうにご考えておられるのか。

それからもうひとつは、やっぱり何といても指導者なんですよ。これが本当に最後、大きなキーポイントになると思いますので、指導者の選定にあたって相当な力を入れてやっていただきたいと思います。

(長沼委員長)

本当に指導者を厳選して丁寧に厳しくやっていただきたいと思います。期待しておられる方もいますのでそう思います。

(坂爪委員)

いろんな塾に行っている子どもたちの話を聞きますと、予習的に取り組んでる塾があったり、復習的に取り組んでる塾があったりして、そこらあたりをはっきりと方針を出した方がいいと思います。

(前澤教育センター長)

塾の複数というか、かけもちという点では恐らくそういう子どももおられるのではないかと考えておりますので、私どもが実施するものとうまく関連させて、さらに力を伸ばしてい

ただければなと思っております。

指導員の方につきましては、それぞれお願いする方には責任を持って面談し、確かな方を確保していきたいというふうに考えております。

それから、今ほどお話がございました学習の内容ですが、基本的には補充学習ということを中心に、学びのマルシェの方では進めていきたいと、そんなことを含めて今後カリキュラムや教材の検討を図ってまいりたいと思います。

(池浦教育部長)

多い場合はどうなんだというご質問があったと思いますが、これは前にも協議会で説明したとおり、一番星事業、いわゆるトップランナー、エキスパート教室については塾に完全委託をさせていただき、その塾で厳しいようですが選考試験をやらせていただくというふうに考えております。

学びのマルシェの部分の中のプラスワン、ステップワンについてはその受け皿としてもあるわけですが、例えば定員をはるかにオーバーしたような場合については、年間36回考えておりますが、回数を若干調整するなりをして、基本的には全員の方を受け入れていきたいという方針で考えております。

(長沼委員長)

今年、高校に入りました子どもが今、高1ギャップに苦しんでおりまして、大学受験は高校からという考えもありますけど、実際は中学校3年間の基礎というのは本当に大事なんですね。ですからそういう観点からも塾の先生の方からも中学生の内容を確認して、しっかりとした土台でやっていただきたいということを願っております。

(渡辺委員)

東京都の高校のそれこそ超難関の大学を目指す学生に対して、特別の授業をやると、それも有名ゼミの講師を選んでやるという記事を最近ある新聞で見ました。そういうふうな自治体がこれからはどんどん出てくることが考えられます。全国で中学生あるいは小学生の段階でこういう事業をやっているところ、あるいは県内でこういうふうな事業をやっているところがどの位あるのかわかったら教えていただきたい。

(池浦教育部長)

この学びのマルシェの考えのベースになっているのは、九州の大分県豊後高田市、そこで学びの21世紀塾という取組がございまして、人口3万人位の地方都市にあって、首都圏に負けない子どもたちの学力をつけたいという中で教育委員会と首長が一緒になって、公的な塾をやって、学力の補填をしていきたいと思いますという有名な事業があり、NHKの特集でも取り上げられています。そのほか、首都圏であればかなりの区間競走がありまして、うちの区の子どもたちは必ず進学できる、経済的観点を度外視した中で何か応援をしていきたい。とい

うような様々な取組をやっています。数についてはきちんと今抑えていませんが、地方であってもポツポツと学校単位であったり市の単位であったりしていますけど、取組はいろんな形でなされているという現状です。

佐賀県の武雄市が小学校の段階から塾と提携して公教育をやっているという話も出ていましたが、そういった取組が少し出てきているという印象があります。

(長沼委員長)

私の方にも塾の方から、塾をないがしろにすることになるんじゃないでしょうかというお話もいただいたんですけど、塾もいろいろで、私は逆にこういうところに子どもたちが出てきて、塾の先生もやり方を学んだり、研究したりすることが本当に大切なことなんですね。ですからこれは、子どもたちもそうですし、どなたもがチャンスになると思っておりまして、いろんな意見が出るかもしれませんが、どうか良い指導者を見つけていただきたいと思います。

他によろしいでしょうか。では承認と決定いたします。

(4) その他

ア 小中一貫教育実施状況について（概要報告）

前澤教育センター長が説明

質疑に入るが質疑なく、質疑終結

イ 「三条市の幼児教育」及び「三条っ子発達応援事業」パンフレットについて

久住子育て支援課長が説明

質疑に入るが質疑なく、質疑終結

ウ 次回教育委員会定例会の日程について

笹川教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する。

〔日時〕平成26年5月27日（火）午後1時30分

〔会場〕三条市役所栄庁舎 201会議室

8 閉会宣言 午後2時15分

三条市教育委員会会議規則第38条及び第39条の規定により、会議の顛末を記載してここに署名する。

三条市教育委員会

委員長 長沼 礼子